

## 【大学教育推進会議】 e-Learning 推進部会

### 科目（英語科教育法Ⅰ）

No	テーマ	学修到達目標	内容	課題
第1講	オリエンテーション（この講座でまなぶこと） 英語教育の目的	英語教育の目的は何であるか説明できる。 初等教育、中等教育のそれぞれにおいて必要な英語教育の内容を説明できる。 日本における英語教育の歴史を説明できる。	国際化時代の英語教育の在り方を説明できる。 教養英語から実用英語への変遷を調べる。 資格英語の教え方を調べる。	自分の考える英語教育の目的を語る。 日本における語学教育の歴史を調べる。
第2講	英語教師論	教師という名称について説明できる。 理想的な教師はどのような人か説明できる。 ALT, 教員免許状について説明できる。	教師、教員、教官、教諭などの類似の名称の違いを説明できる。 理想的な教師の人物、英語運用能力、授業能力について考察する。 免許状を種類に沿って説明する。	自分を担当した先生方がどのような素質を持っていたかまとめる。
第3講	英語の学習者	学習者の持っている特質を説明できる。 学習者の認知スタイルを説明できる。 学習者の性格や動機付けについて説明できる。	英語学習に向いている素質とは何であるか考える。 学習者の特性(年齢、知能、適性、認知スタイル、動機付け)について考察する。	英語学習と動機付けの関係について説明を行う。 場面独立型と場面依存型という二つの認知スタイルの違いを調べる。
第4講	言語習得論	子どもの言語発達の段階について説明できる。 ジャン・ピアジェの考えを説明できる。 行動主義理論と言語生得説理論の特質を説明できる。	一語文から二語文、複語文への発達を調べる。 オーディオリンガルメソッドと行動主義理論の関係を調べる。 Krashen の言語生得理論を調べる。	言語習得の臨界期の説明を課する。 行動主義理論と言語生得説理論の違いを表にまとめる。
第5講	英語教授法	英語教授における演繹法と帰納法の違いを説明する。 様々な英語教授法を説明できる。 コムにケーション主体とは何か説明できる。	ディクテーションやシャドーイングの指導法を訓練する。 すぐれた指導法の動画を見る。 コミュニケーション主体の模擬授業を行う。	自分の関心を持った教授法を一つ選び、概要を説明する。 ディクテーションを課する。
第6講	学習指導要領	学習指導要領とは何か説明できる。 学習指導要領の持つ法的拘束力を説明できる。 学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について説明できる。	指導要領の歴史について調べる。 最新の学習指導要領の内容を分析する。 各国において、指導要領がどのように影響するか表を作成する。	各国の学習指導要領の事例を集めて、日本の学習指導要領と比較する。
第7講	聞くことの指導	4技能の中で「聞くこと」の意味を説明できる。 聞くという「能動的な」行動について説明できる。 音声学の基本的な知識を説明できる。 国際音声記号を説明できる。	すぐれた指導法の動画を見る。 ディクテーションとシャドーイングの練習を行う。 日本人が聞き分けに苦手な音の訓練法を知る。	ディクテーションを実際に行う。 能動的に「聞くこと」の意味を説明する。

第8講	話すことの指導	話すことの2つの領域（Conversation, Public Speaking）の違いを説明できる。 CEFRで示された「話す力」を説明できる。 Classroom Englishの大切さを説明できる。	話す話題の見つけ方、提示の仕方を考える。 小学校においてスピーキングの指導法を考える。 学習指導要領示されたコミュニケーション能力の育成の意味を考える。	Classroom Englishを用いた授業案を作成する。 CEFRの概要を調べる。
第9講	読むことの指導	歴史的な文脈において、文法訳読法が果たした役割を説明できる。 ボトムアップとトップダウンの2つの読み方について説明できる。 読むときのスキーマの意味を説明できる。	速読と精読を比較する。 生徒へのプレリーディング活動を調べる。 現代においての、文法知識の重要性を説明できる。また、その問題点を考える。 適切な語彙指導法を考える。	文法の理解とリーディングの関係を調べる。 語彙の教え方を調べる。
第10講	書くことの指導	ライティングへの関心の高める方法を説明できる。 初等教育において、どの程度まで書き言葉の指導を行うか説明できる。	自由英作文の活用を考える。 機械翻訳の活用法について考える。 結束性と一貫性を意識した英文を書く。	子どもたちの書いた英作文を実際に訂正してみる。 各種の機械翻訳を比較する。
第11講	評価と言語テスト	色々なテストの種類を説明できる。 評価の視点を説明できる。 テストを信頼性、妥当性、実用性の概念で説明できる。	主観テストと客観テストを説明できる。 診断的評価、形成的評価、総括的評価を考える。 絶対的評価と相対的評価を考える。 CEFRの評価を考える。	自分が過去に於いて受けてきたテストを、様々な視点で解説する。
第12講	世界の英語	世界の英語の種類を説明できる。 英米英語から国際英語へというパラダイムシフトを説明できる。 アメリカ英語とイギリス英語の違いを説明できる。	英語の歴史から世界への英語の広がりを考える。 カチルによる英語の区分け(ENL, ESL, EFL)を考える。 英語教育における英語の規範を考える。	日本人の英語の特徴を述べよ。 英語学習における英語の基準は何か。
第13講	小学校の英語教育	日本における小学校での英語教育のおこりを説明できる。 小学校での英語音声の指導法を説明できる。	小学校、中学校、高校のそれぞれのレベルでの英語教育の実態を知る。 様々な指導法（ライム、早口言葉、歌、ゲーム）などを実践する。	学習指導要領では、小学校での英語教育はどのように記されているか調べよ。 言語の気づきとは何か説明せよ。
第14講	異文化理解に関する指導	伝統的な西洋と東洋との二限対立の分類から、多文化化しつつある現代文化を説明できる。 文化と言語の関係について説明できる。 言語相対論について説明できる。	多文化共生社会とはどのような社会であるか調べる。 サピア＝ウォーフの仮説を考察する。 高コンテキスト文化と低コンテキスト文化の違いを考える。	世界に多発する民族問題と言語の事例を収集する。 学習指導要領では異文化理解はどのように扱われているか。
第15講	教材及びICTの活用	教材を用途によって、分類できる。 デジタル教材の利点を説明できる。 教材としてのICTを活用できる。	英語教育における英語教材の進歩について考察する。 AIを用いた英会話の練習の可能性について説明する。 機械翻訳の利点と欠点を説明できる。	小学校での英語教育教材として望ましいものを提示する。 Google翻訳、DeepL翻訳、ChatGPT翻訳を比較する。

